

節税について

「節税」という言葉を聞いたことがあると思います。この言葉は、中小企業の経営者にはとても魅力的に聞こえるようです。

ここでひとつ質問があります。

「節税をすることで会社の財務基盤が強化され、資金繰りが安定しお金の心配をしなくていい。」という結果となるのでしょうか。

節税と称して利益（＝資金会計理論でいう損益資金）をせっせと減らしている社長がおられます。

「財務の目標は損益資金を増やすことです。」

損益資金と税金は比例の関係にあります。損益資金を増やせば税金が増えますし、また税金が増えなければ損益資金が増えることはありません。言い換えると「損益資金を減らすこと」＝「財務基盤を危うくすること」なのです。

資金会計理論で定義されている節税は「お金を残し増やすこと」です。

成功の目安は以下の3点です。

- ① 剰余金が増えた
- ② 現金が増えて残るようになった
- ③ 金融機関の格付け評価が上がった

結果、財務基盤強化につながります。

逆の状態だとどうでしょうか。

- ① 剰余金が減った
- ② 現金が減少し資金繰りが苦しくなった
- ③ 金融機関の格付け評価が下がった

以上の状態であれば節税は失敗です。

現金を持ち出すだけで、財務基盤が強化されなければ結局、単純に税金が減少しその分以上に現金も減少しただけになります。つまり節税にはつながらないのです。

「資金会計理論」を用いれば、資金繰りが楽な財政状態を目指すことができます。

今、そのお金は会社に利益が出ていないとき支出しますか。